

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500123		
法人名	有限会社 オレンジケアサービス		
事業所名	憩いの家 オレンジ		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区湊山町12-3		
自己評価作成日	平成26年11月27日	評価結果市町村受理日	平成27年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104
訪問調査日	平成26年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタートは月一回の手芸教室でした。もっと通いたいとの要望がありデイサービスになり、最後まで見てほしいとの要望でグループホームへとなりました。入居者様は近隣に住んでおられた方や家族様が住んでおられる方です。住み慣れた馴染みの場所で最後を迎えたいと望まれている方々が入居されています。生活には食事が一番大切だと考えているので食事は手作りで提供しています。メニューは季節の食材をとりいれています。一日のスケジュールは決めずに一人ひとりのペースに合わせて生活していただいています。常時医療行為が必要にならない限りホームでの最後を支援しています。お医者様や家族様と協力しながらターミナルをおこなっています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「寄り添う介護」を基本理念とし、一人ひとりの思いや生活に寄り添ったプランとケアが大切にされ、住み慣れた地域の中で入居者と職員が家族のように穏やかに暮らしている。薬局の待合室から始まった地域ケアの実践を発展させ、地域医療に力を入れている開業医との相互の信頼関係が構築されてきた。そこから地域との繋がりが進展し、担い手の人材が集まっている。細かなプログラムはなく、一人ひとりの意思や自主性を大切に、施設を運営している。また、終末期には、本人や家族に不安がないように近所の医院と常に連携している。今後、近所の人がいいつでも自由に来てくれる憩いの場所となるようなカフェも計画中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「寄り添う介護」を理解して業務をおこなえている。寄り添うということ、入居者様、ご家族様に対してのケアにつなげている。	事業所は地域の人たちの応援で設立された経緯があり、利用者一人ひとりの思いを大切にする「寄り添う介護」を理念としている。申し送りやミーティングで話し合い、実際のケアにつなげている。	「理念」とは事業所が目指すサービスのあり方を端的に示したものであり、常に立ち戻る根本的な考え方を言葉にしたものです。全職員で話し合い、具体的な文章として作り上げて、利用者、職員がわかるように掲示し、実践につなげていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事への参加、近隣のかたのボランティアを受け入れ、事業所での行事にも近隣の子供たちを中心として参加していただいている	近隣の小学校の演芸大会や自治会の行事にも参加している。秋祭りには幼稚園児やたくさんの近隣の方々に金魚すくいなど縁日を楽しんでもらった。自発的に近所の人たちがフラダンスなどのボランティアを行い、事業所が町の中の「憩いの家」としての拠り所となっている。	地域の方々の強い協力が得られています。特に、開業医と事業所との深い信頼関係が築かれています。自治会、老人会、小学校、幼稚園、民生委員、医師、利用者、家族などとの「応援団」のような協力関係を形成し、末長く地域の中で共存し続けられることを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	圏域のあんしんすこやかセンターとの協同で、認知症カフェの開催予定です。月一回からはじめて週一回の開催を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回第四水曜日に開催し、入居者様の様子を報告している。地域の方や、あんしんすこやかセンター職員の意見を参考に業務を行っている。	入居者、家族、医師、自治会長、民生委員、安心すこやかセンター、他グループホーム関係者をメンバーとして、2ヶ月に1回運営報告と意見交換を行っている。看取りについては医師からアドバイスをもらい安心感につながった。避難訓練、行事の協力も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あんしんすこやかセンター、民生委員の方たちと連携をとりながら、入居者さまの生活を支援している	介護保険課や安心すこやかセンターとは運営推進会議での報告以外でも連携を図っている。自由に近所の人たちが立ち寄れる集いの喫茶「オレンジカフェ」の開設に取り組んでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束が不適切ケアということを理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。20:00~8:00までは玄関のカギは施錠しているが、それ以外は施錠はしていない	年間研修計画に組み込み、外部研修も受けている。玄関は日中、開放しているので、時には一人での外出もあるが、本人の気持ちを大切に、それとなく見守っている。	

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	神戸市作成のDVDを用いた研修や外部講師をまねいて研修を行っている。虐待が見過ごされるように注意を払い、虐待防止に努めている。	入職時と年に1回研修を行っている。不適切なケアがないようにミーティングで話し合っている。管理者は職員面談や日ごろの様子を見て、職員の疲労やストレスがないか気をつけている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画にいれています。11月に外部講師をまねいて研修会をひらく予定です	今のところ成年後見制度や自立支援事業を利用している入居者はいないが、今後情報提供や支援ができるよう、年間研修計画に組み込んで学んでいる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず本人以外の家族の方にも立ち会っていただき説明を行い、十分理解していただけるようにしている。	利用者、家族の不安や疑問に答えながら契約書、重要事項説明書を丁寧に説明している。重度化した場合や終末期の見取りについては医師も同席して対応方針や考え方を詳しく話し、本人や家族の同意を得るようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ででた意見や家族のかたが来所されたときに聞いた意見は改善していくように努力しています	季節の行事等の後に、家族の方々も一緒に食事に加わってもらい、意見や要望、悩みなどを聞いている。外出希望などは出来るだけ取り入れている。家族との連絡がうまくいかず、退所された方があるので、信頼される施設となるように全職員で話し合い、努力している。	家族との信頼関係も順調に行われている。家族アンケートではほとんどの家族の方からの感謝が述べられているが、数名の方からの不安の声がありました。入居者の笑顔や外出、行事の楽しい様子など、「お便り」を発行して共有されてはいかがでしょうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが面接をおこない意見を聞いている。ミーティングでの意見はすみやかに改善するようにしている	フロアごとに分けてミーティングを行い、職員の意見を聞いている。個別対応、外出希望、家族との関わりなど提案があり、業務やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行い、個々の要望の聞き取りをし職員が働きやすいようにしている。、研修などにも参加しやすいようにしている。		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実務者研修、外部研修、講師をまねいての内部研修実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	兵庫区のグループホーム連絡会への参加、年一回の全国グループホーム大会を通じて情報交換をしたり、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの不安や要望を聴き、入居生活を安心して暮らしていただけるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聴き、入居生活にたいしての不安をなくし、要望にそなえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できること、できないことをみつけだし、必要なケアを行っている。他のサービスが必要なときは提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯干しやとりこみ、洗濯物のたたみなどできることは一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への連絡をまめにし、話しやすい関係をきづいてる。行事への参加をとおして入居者様との時間を大切にもらっている。		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催しにに参加したり、美容院はなるべく行きつけの店に話をしてもらっている	入居者のほとんどの方が近隣に居住しており、近くのお店やスーパーとも顔なじみである。食材の買い物に毎日一緒にでかけるので、挨拶や話も楽しみの一つとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったりして、共通の話題を話したりして、コミュニケーションをとりやすいようにしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様との関係を維持して、相談や支援につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えるようにつとめている。不定期に個別に話を聞ける場をもうけている。	日常会話のほんの小さな呟きにも注意を払い、本人の思いを集約し、日々の業務記録や日誌に記録している。スタッフ間においては、日常的な業務の中で、具体的な連携の実践が見える形で記録しており、利用者アンケートでの満足度に表れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔話をしながら、生活歴や、いままでの環境などを聴き、安心して暮らしていただけるヒントをみいだしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態を把握し、一人一人のペースにあわせて過ごしていただいている。		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり、他のスタッフや家族・本人から意見を聞き計画を作成している。変更が必要な時は現状に即した計画を作成している。	計画の定期的な見直しは、半年ごとである。事業所独自にわかりやすいアセスメントシートを作成し、担当者のみならず、かかわりのあるスタッフ全員から情報収集し、利用者と家族の思いをケア計画に盛り込めるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があれば情報を交換してよりよいケアを見つけるようにカンファレンスを行い、計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用様にとってなにが必要か、家族様の要望をどう対応したらいいかを考えながらサービスの提案をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきつけの美容院やスーパーへ外出したりして今までの生活で継続できることを支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本今までかかってこられたかかりつけ医に受診していただいています。家族のかたが同行できないときはスタッフが対応しています。	入居者全員が同じ区内の住民である。かかりつけ医も近隣の開業医であり、長く地域住民の在宅診療に取り組んでいる。毎月2回第2と第4水曜日が往診日である。検査等で同行が必要な場合は家族の要望により、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があったときは看護師に相談して、受診が必要かどうかを判断してもらっています		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さまが退院されたときに困られないように、戻ってこられた時の対応や必要な福祉用具などを病院の医療連携室と情報の交換をしている。	入退院時は、書面での情報交換など病院の医療連携室と連絡を取りあっている。家族の状況により、定期的に見舞いや洗濯物等身の回りのことにも対応している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居されるときには必ずホームドクターと一緒にターミナルの話を説明しています。事前に説明していても気持ちは変化するものなので、その時が来た時には何度も家族・ドクターとカンファレンスをひらいてターミナルを行っている。	入居時に、かかりつけ医が同席し、重度化・終末期ケア対応指針についての意思確認を行い、記録している。状況変化に応じ、再度意思確認し、家族・かかりつけ医・職員などでカンファレンスを行い、ターミナルケアを実践できるように取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部のスタッフしか救命訓練にいけない。マニュアルを作成しているが全スタッフに徹底はできていない		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で話し合いを行っています。避難訓練には近隣の方にも参加していただいて、いざというときの対応を確認してもらっている。	具体的に近隣住民と一体となったの消防訓練ができています。単に近隣に避難協力を求めるだけでなく、災害時の受け入れ場所としての協力や、災害時要支援者のマップづくりなどにも近隣住民と協力して取り組んでいる。水・食料・衛生材料等の備蓄も準備している。	災害時は利用者の生命を優先し対応するのは当然ですが、避難後の家族連絡先、病名、薬、ADLなどの情報が記載された書類などを持ち出し袋に用意するといった対策を検討されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重した対応をこころがけています。とくに声がけには注意するように研修会も行っている。	食事のペース、食後の時間の過ごし方など、それぞれの方々のADLの違いや趣味嗜好などを尊重し、自由に過ごすことを重視している。利用者が自分の役割をもって、自主的に動ける支援を実践している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様からは思いや希望を日ごろからきき、自己決定できるように支援している。		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日など決めずに本人の希望を尊重しながら入浴していただいたりして、思いのまま過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの美容師さんにきていただいたり、お化粧品のお手伝いをしたり、洋服を決めるときにアドバイスしたりしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行きメニューを考えたり、調理の準備を手伝っていただいたり、配膳や、片付けをしてもらっている。	メニューは当日の朝、利用者の意見を聞いて決定する。一緒に買い物に行き、市場に行ってから食材を変更することもある。家族や知人などから、地方のじゃがいもや田舎の柿が届き、食卓に上がることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示を守り、食事量や水分量に気をつけている。必要に応じて食べやすい形態の工夫などしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできない方への声かけや介助をしている。必要な方には定期的な訪問歯科の口腔ケアやアドバイスもしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくトイレに誘導して排泄をしていただいています。夜間転倒の危険のある方はポータブルトイレを使用していただいている。	なるべく自然な、さりげない声掛けを行い、落ち着いた環境で排泄できるよう配慮している。排泄の状況等は、バイタルチェック表に記録している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をきをつけていたり、運動量の少ない方への歩行訓練をうながしています。食物繊維を多くとっていただいたりして自然排便をうながしている。		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低限の入浴希望回数は本人や家族から希望をきいて計画しているが、個々に声をかけ入浴していただいている。	入浴回数などの要望は本人や家族から聞いて、好きな時間に入れるよう対応している。一人で入浴を希望する場合は、職員が洗濯等を見ながら見守れるような体制になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるように不眠のかたには寝る前に足をあたためたりしている。必よな方にはアロマなどの香りをもちいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きをよく読み、禁忌の食べ物などの、服用時の注意事項を理解している。変化があったときにはすみやかに医師に連絡して指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に役割をもっていただいています。定期的な外出支援にて気分転換をしていただいている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、外出を定期的に計画している。年に一度はバス旅行もしている。行事には近隣のかたや、家族の方にも参加していただいている。	日常的には、食材の買い物の外出が主である。近隣には古くからある商店街や市場が点在し、馴染みの人や場所が多い地域であり、家族が同行して出かけることもある。最近では新開地の劇場に大衆演劇を見に行った。年に一度のカニツアーも企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先で支払いを自分でしていただいています。管理ができない方は家族様からお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	施設の電話を自由につかっていたいただいています。手紙はスタッフが投函するようにしている。		

自己評価および第三者評価結果

憩いの家 オレンジ

評価機関：認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節のアレンジメントをとりいれて居心地のいい場所をつくるようにしている。	リビングは、可愛い花が飾られ、食堂の椅子はADLなどに合わせて、回転椅子や肘つきのあるものなど工夫している。立地条件により隣接する住宅への配慮からカーテン等が工夫され、落ち着いた環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをおいたり、廊下にカフェスペースをつくり、思い思いに過ごせるような居場所をつくっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や身の回り品をもってきていただいて、安心し居心地のいい部屋をつくっていただいている。	居室は、床に布団を敷くこともでき、身体状況に合わせてベットに変更することも可能である。カーテンは本人の好みでつけることができる。なじみの家具や調度品で清潔に整えられており、それぞれの自慢の部屋となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや歩行器を使用していただき、安全に移動していただけるようにしている。居室の床材に桐を使用することで転倒時のけがが軽減できるようにしている。		